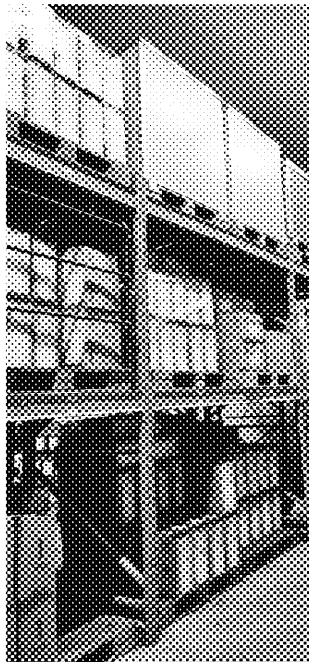


におい漏れ防ぐ／冷蔵車の積載量向上

物流ボックス相次ぎ投入

エーディエフ、24年問題対応

エーディエフ（大阪市西淀川区、島本敏社長）は、物流の「2024年問題」に向け、特殊用途に特化した保管庫兼物流ボックス「ダンカーゴ」を相次ぎ投入する。密閉性を高めてにおい漏れを防ぐ「におわんテナー」を9月に発売。さらに冷蔵車での積載量向上に適した「冷えテナー」を31日に市場投入する。アルミフレームとプラスチック中空パネルによるダンカーゴは、トラックの積載効率向上を目的に販売が拡大。24年1月期は売上高2億円を見込み、発売から4年で3倍増となる。



エーディエフが9月に発売した「におわんテナー」

両製品とも特定の顧客からの過去の特注品を標準製品として販売する。におわんテナーは4年ほど前に香料メーカーからフレーバーの保管用に3台受注したものがベース。においの強いカレーフレーバーを他の製品と同じ倉庫で保管するために使われており、4年たつて確認したところ現在もパッキンの機能を維持していたという。異なる製品でのにおい移りが課題となる共同配送向けに引き合いがあることから、ダン

カーゴの新シリーズとして商品化。においの強いタイヤやスパイス、コーヒーと、におい移りしやすい被服などとの混載に適している。

冷えテナーは食品会社から過去に受注した。正面と背面のパネルを無くすことで冷気が荷物に行きわたる構造としながら、耐荷重1トンを確保。段積みが可能となるため冷凍・冷蔵車での積載効率向上する。食品業界などから引き合いが増えており、シリーズ化を決めた。

エーディエフでは売上高の3割程度だったダンカーゴの割合が、24年1月期には約5割となる見通し。ニーズに応じた品ぞろえ強化で、さらに販売拡大を狙う。